

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 6 7	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Body mass index, alcohol, tobacco and symptomatic gallstone disease: a Swedish twin study. BMI、アルコール、タバコと症候性胆石症：スウェーデン双子研究	
執筆者	
Katsika D, Tuvblad C, Einarsson C, Lichtenstein P, Marschall HU.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Intern Med. 2007 Nov;262(5):581-7.	
キーワード	
アルコール、BMI、条件付ロジスティック回帰、胆石、肥満、体重過多、無煙タバコ、喫煙、Swedish Twin Registry、タバコ	
要 旨	
<p>背景・目的： 胆石症(gallstone disease: GD)の病理には遺伝要因と環境要因との両者が関与している。症候性胆石症と以下の因子との関連を大規模な双子集団において分析・検討する：体重過多(body mass index BMI 25-30kg/m<sup>2</sup>)、肥満(BMI&gt;30 kg/m<sup>2</sup>)、アルコール、喫煙、無煙タバコ。</p> <p>方法： スウェーデン双子登録制度 (the Swedish Twin Registry : STR) はスウェーデン退院と死因登録 (the Swedish Hospital Discharge and Causes of Death Registry) は胆石症および胆石手術関連の診断名と連携していた。体重、身長、アルコール摂取、喫煙、無煙タバコに関する情報は STR から得ることが出来、条件付ロジスティック回帰(conditional logistic regression)分析を用いて関連を検証した。</p> <p>結果： 対象集団全般で、体重過多と肥満とは症候性 GD のリスクと有意な正の関連を示した (オッズ比 1.86、3.38 信頼区間：1.52-2.28、2.28-5.02)。アルコールの多量摂取は対象集団全般においては GD のリスクと負の関係が認められた (オッズ比 0.62、信頼区間 0.51-0.74) が、出生時体重差の大きい一卵性双生児 (discordant monozygotic twins) および二卵性双生児においては、アルコール摂取と GD との関連は認めなかった (オッズ比 1.08、0.96 信頼区間：0.82-1.42、0.79-1.16)。喫煙、無煙タバコは GD とは関連が認められなかった。</p> <p>結論： 本研究では BMI と症候性胆石症との間に正の関連を認め、これまでの疫学研究と一致していた。アルコール多量摂取は GD のリスクと負の関連を認めた。喫煙は GD への影響を認めなかった。</p>	